

CMM[®]入門

- このコースでは能力成熟度(CMM)モデルとは何か、ビジネスにどのように役立つかを学びます。このコースを終了した方は次のようなことが出来るようになります。
- CMMの構造や内容を説明できる
- CMMを会社のソフトウェア開発のプロセスに結びつけることができる
- 組織内でCMMを適用することにより得られる便益を特定できる
- ソフトウェアプロセス改善プログラムの概略計画をまとめることができる

目的

- このコースでは、次のことを学びます。
- プロセス、能力、成熟度といった用語を理解する
 - CMMの18のキープロセスエリア(KPA)について議論する
 - CMMの基本概念を説明する
 - どのようにしてCMMをソフトウェアプロセス改善活動に用いることが出来るかを理解する
 - CMM及びキープラクティスを様々な状況において解釈する
 - CMMの構造を説明し適用する

コースの成果

- コースに参加すると、下記の事ができるようになります。
- 組織がプロセス改善やCMMの適用からどの部分で成果を得ることが出来るのかを特定することが出来る
 - 組織がどのようにCMMを活用できるのかを特定することが出来る
 - 組織のためのソフトウェアプロセス改善プログラムを計画することが出来る

コースの形式

このワークショップは演習を中心としておりますが、演習に必要な内容は適宜行われる講義で学習していただきます。テキストには講義のスライドと説明が掲載されています。また適宜、配布物もお渡しします。

対象者

- CMMから得られる組織の便益を理解する必要があるマネージャ
- 組織に適用するためにCMMを理解する必要がある実務の遂行者
- CMMを用いたアセスメントに関与する実務の遂行者

コースの内容

背景

- CMMの歴史
- プロセス重視とは
- 未熟な組織と成熟した組織の比較
- 基本的な用語の定義
- プロセス改善のライフサイクル
- プロセス改善から得られる便益
- CMMが生まれた経緯と意図

CMM[®]の枠組み

- 成熟度レベル
- CMMの構成要素
- コモンフィーチャ(共通特徴)
- 組織の役割と構造
- 専門的判断

成熟度レベル

- レベルの概略
- レベル2, 3, 4, 5におけるキープロセスエリア(KPA)の説明
- KPAの解釈
- 各レベルにおけるKPA間の関係
- 全レベルにおけるKPA間の関係
- 組織の成熟度に対するKPAの貢献

まとめ

- 組織の成熟に伴うプロセスの変化
- 各成熟度における要員のふるまい
- 組織の成熟に伴う新技術の適用
- 成熟度レベルを通じた測定の必要性

能力成熟度モデルCMM、CMMIは、カーネギーメロン大学によって、米国特許商標庁に登録されています

(注) このコースで提供する知識は、PPACMMアセッサコースに参加するための前提になります

